

遺骨収集事業への参加

一般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協会（推進協）は、国の行う戦没者の遺骨収集及び関連する事業に対し、必要な協力を行うことにより、これらの事業の促進を図り、またこれらの事業を通して遺骨収集に関する諸外国の理解の促進及び国際親善の増進に寄与することを目的として平成28年7月1日に設立されました。協会は厚生労働省から遺骨収集業務を行う唯一の法人として指定を受け、社員団体には（一財）日本遺族会、（公財）大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会、（一財）全国強制抑留者協会、東部ニューギニア戦友・遺族会、全国ソロモン会など12の団体があります。

推進協は隊友会に遺骨収集事業への人員の差し出しを要請し、今回、私が東部ニューギニア現地調査（第1次派遣）に参加しましたので、その概要を報告します。

期間は平成30年6月9日（土）から6月16日（土）の8日間で日本からの参加者は推進協職員2名、遺族会1名、隊友会1名の4名でした。調査場所は南海支隊と豪軍の戦闘地域であったエオラクリークでした。

【当時の状況】

南海支隊とは何か？
南海支隊は1941年（昭和16年）11月15日、第55歩兵团司令部、歩兵第144連隊、山砲兵第55連隊第1大隊、第1野戦病院などにより堀井富太郎少将を長として編成された。支隊は開戦後、グアム島攻略、ラバウル攻略に従軍。昭和17年7月に始まったポートモレスビー作戦の担当となり、第5師団から歩兵第41連隊と、マ

レー作戦に投入された独立工兵第15連隊が追加配属された。

では南太平洋の作戦を振り返ってみよう。昭和17年4月のドーリットル東京空襲により防衛圏の更なる拡大を決定した日本は、東にミッドウェー、南にニューギニアのポートモレスビーの占領を企図した。ポートモレスビーの占領は、当初、珊瑚海海域を制圧、海路で行い、その結果、ソロモン諸島を勢力圏に収め、米豪遮断を図る一連の作戦の一部であったが、珊瑚海海戦は、予期の通り進展せず、結局、ポートモレスビーは、陸路で占領することとなった。同年7月21日、道路建設や偵察を任務とした独立工兵第15連隊基幹の先遣隊が東部ニューギニア東北のゴナに上陸、続いて8月18日に歩兵第144連隊基幹の南海支隊主力がバサアアへ上陸、先遣隊と合流し、後続部隊も参戦しポートモレスビーに向かい前進を開始した。



バサアアからポートモレスビーまで直線距離は約220kmだがオーエンスタンレー山脈（最高峰の標高4000m、作戦地域の通過時は約2000m）を超えなければならず、同山脈は密林に覆われ、道はなく、険しい斜面を持つ山々が連なり、河川は急流で前進は困難を極めた。

南海支隊は、乏しい補給と逐次強まる豪軍の

抵抗に思い、ポートモレスビーまで約50kmの地点で前進が頓挫、9月13日、撤退命令を受領し、9月24日撤退開始、豪軍は9月28日、本格的に攻勢を開始、日本軍はもと来た道を豪軍の攻勢を受けながら当初のバサアアに向かうことになった。

この作戦に投入された日本軍将兵1万1千名のうち7千6百名が戦死あるいは戦病死し、ブナ、ゴナ、ギルワにおける日本兵の捕虜はわずかに2百名から2百50名余りという結果となった。この後も戦力を投入し3年余にわたるバサアニューギニアの作戦は約15万の将兵のうち12万余の戦病死（ほとんどが飢餓と病氣）と言う結果に終わった。

【調査の状況】

今回の調査地は、エオラクリークの上部戦場と言われるところで南海支隊が撤退時に豪軍と戦闘を行ったオーエンスタンレー山脈頂上のやや北側で、標高1600mから2000mの場所でした。道はなくジャングルなのでヘリで近くに降着、そこから調査地の近くまで歩き、やや開闊したところにテントを設営、キャンプ地としました。これを拠点に4日間、周囲の戦闘地らしき場所を、必要に応じて、現地住民の協力を得ながら調査しました。落ち葉が分厚く堆積していましたが、やや窪地になった所は蝸虫、また人工的に見える地形の段差などは戦闘陣地の一部と推定し、標識をつけ、GPSロガーで緯度経度を記録する作業を実施しました。標識の数は141個となり、次回訪問時は、これらを基準に本格的な陣地の掘削作業を行う予定です。

今までの遺骨収集作業は、戦地での埋葬箇所

の掘削、現地の戦没者墓地からの遺骨収集、現地の収集した遺骨の受領などがほとんどであり、宿泊はホテルか民泊でしたが、今回は、現地の人さえほとんど足を踏み入れない場所でのテント生活であり、過去の収集事業とは全く異なる厳しい環境での作業でした。

【市川支部長 金井泉寿】

現地の老人と金井支部長
年寄りには尊敬されている。



オーエンスタンレー山脈



現地キャンプ



偶然発見された頭骨の一部



参加者、現地役人等で記念撮影



現地の子供達 子供達は世界どこに行っても天真爛漫

30年度 前期支部長等会議終了

7月19日（木）、14時半から17時まで千葉市民会館において、小淵会長以下、県役員・各支部長計43名が参加して開催。当初、6月19日に開催された隊友会定時総会等の結果を伝達した。

その後、「自衛隊の家族支援協力」について、習志野駐屯地業務隊担当官から、県自衛隊家族会を含めた県内の実施状況について説明を受けた。

引き続き、本年3月に千葉県と県隊友会が締結した「災害時における隊友会の協力に関する協定」第6条に基づく、平素の県隊友会の訓練、すなわち県内10個所の千葉県防災備蓄倉庫において、倉庫の所在する地域を管轄する千葉県地域振興事務所が定期的に行う備蓄物資の点検や搬出入の一部を倉庫近傍の県隊友会支部が支援し、災害時における防災備蓄物資の払出しを迅速かつ円滑にすることを目的とする訓練について審議した。



県災害ボランティア 船橋支部 葛南地域振興事務所と顔合せを実施

船橋支部は、6月18日（月）、13時半から15時まで、船橋駅前フェイスタビル7階会議室において、県隊友会と千葉県が協定を締結している県防災備蓄倉庫からの緊急物資の払出し支援協力を円滑に行うため、支部会員11名が参加して、千葉県葛南地域振興事務所（同ビル7階）の企画係副主査 野田和義氏、玉田裕史氏と顔合せを行った。同支部は、葛南地域振興事務所が管理する葛南地域防災備蓄倉庫（市内高瀬町52）からの物資払出し支援協力を担任しており、今回の顔合せとなった。

支部と振興事務所の紹介に始まり、野田副主査からは、東日本大震災時の倉庫からの払出し体験、「当日は、発災後2日、所員合計6名交代で、倉庫には4名で払い出し約半日間、各市町村からの要望に対応する形で支援した。」などを聞いた。玉田氏からは倉庫の現状、備蓄物資貸出要領、備蓄量等の説明を受けた。

支部会員からは、「まず、備蓄倉庫の標識が道路から見えないよう道路側の草木の伐採が最優先」、「倉庫ゲート門の前は、東日本震災時の液状化で盛り上がり、普通乗用車は通行できないので、整備が必要」、

「倉庫前の道路（県道15号線）から直接右折可能になるよう改善が必要」、「高齢者でも作業できるよう倉庫にハンドフォークリフトの配置が必要」など具体的な要望が出た。

【船橋支部事務局長 岡本 勉】

更に、訓練計画や年2回の訓練実施についての確認、通信連絡方法（電話、メール）の交換などを行った。



隊友千葉だより

平成30年9月号 (No. 55) 千葉県隊友会事務局

〒260-0042 千葉県千葉市中央区椿森1丁目26-9コンラッドビル4階 電話 043-306-2095 FAX 043-306-2096
電子メール chibataiyuu@angel.ocn.ne.jp ホームページ http://www.chibataiyuu.com/



西日本7月豪雨 在葉災害派遣部隊を激励

西日本7月豪雨災害に際し、千葉県駐屯の第1高射隊(空自習志野分屯基地)及び需品教導隊(陸自松戸駐屯地)は、広島県及び岡山県に出動した。

第1高射隊は、7月10日から7月21日まで人員10名、5000リットル水タンク車1両をもって広島県三原市において被災市民に対する給水支援に任じた。

需品教導隊は、7月9日から8月初旬まで岡山県倉敷市と新見市に各1個所の入浴所を開設し、途中人員交代をはさみ、延べ37名で地域住民に入浴支援を行い、大変感謝された。

小淵県隊友会長は、関係理事役とともに、それぞれ7月24日に上田需品学校長及び小林需品教導隊長を、7月27日に若林第1高射隊長を訪問し、災害派遣部隊・隊員を激励した。



需品学校・需品教導隊を激励



需品教導隊入浴支援



第1高射隊を激励



第1高射隊給水支援

30年度第1回中級管理講習で隊友会を紹介

安達副会長は、7月13日(金)、14時から約1時間、海自第3術科学校(下総基地)において中級管理講習の一環として講習員49名(3佐以下の横須賀・大湊総監部管内等の対象者)に対して隊友会の概要、会員のメリット、県隊友会の活動状況等を紹介した。日向理事役、宮越理事役、河西監事役、満園沼南支部長及び阿比留柏支部長も同行し、それぞれの立場から隊友会の活動状況やメリット等を話して興味を引き、この授業が本講習(約3週間)の最後にふさわしいものになったと思料する。これにより一人でも多くの隊員が入会することを期待したい。



中級管理講習受講風景

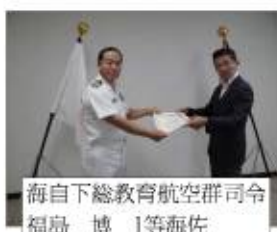
指揮官交代 相談役委嘱

8月1日付で、海自航空補給処長 荒川純一1等海佐は、第1航空修理隊司令(鹿屋)に栄転され、後任に第3術科学校教務部長から白坂政秀1等海佐が着任された。また同日付で、下総教育航空群司令 浅岡哲史1等海佐は、横須賀教育隊司令に栄転され、後任に徳島教育航空群司令から福島 博1等海佐が着任された。

小淵県会長は、近傍支部長及び関係理事役とともに、白坂1海佐及び福島1海佐を、それぞれ8月24日(金)及び8月27日(月)、表敬訪問し、相談役就任をお願いした。



海自航空補給処長 白坂政秀 1等海佐



海自下総教育航空群司令 福島 博 1等海佐

九都県市合同防災訓練研修

小淵県隊友会以下29名は、8月26日(日)、勝浦市勝浦中学校をメイン会場として実施された第39回九都県市合同防災訓練(千葉県会場訓練)を千葉県からの案内により参観した。本訓練は、千葉県、勝浦市及び公益財団法人千葉県消防協会が主催し、「相模トラフ沿いを震源とする大地震が発生し、勝浦市では震度6強を観測、強い揺れによる家屋倒壊などの被害が多数発生し、ライフライン機能も麻痺している。また、沿岸部では津波来襲



の恐れも生じている。」との想定の下、救出救助などの実働訓練や避難所の運営訓練などが実施された。メイン会場の中学校校舎屋上では東方ヘリ隊のヘリコプターから第1空挺団隊員のリベリング降下による救出作戦が行われ注目を集めた。また、高射教導隊による被災者捜索及び需品教導隊の炊き出し支援が行われた。

本訓練には、小淵会長の他、地元の夷隅支部から高橋支部長以下10名、近隣から若梅山武東金支部長以下8名、秋重市原支部長以下3名、三好安房支部長以下3名、川村館山支部長、森本長生兼茂原支部長、金井市川支部長、県本部防災担当理事役が参加した。訓練終了後、参加者は勝浦市役所会議室を利用していただき、弁当会食を実施した。会食後段では、千葉県との防災協定などについて、現地で7個支部の会員皆さんから直接、有意義な意見を聴取することができ貴重な機会となった。市役所会議室の利用及び大盛り海苔弁当の手配などは高橋夷隅支部長と同夫人のご尽力によるものであり、深謝。



【防災担当理事役 大根正雄】

30年7月・8月入会者

入会深謝・隊友会の発展にご協力を

【敬称略・順不同】

【安房】

菅 蕨浦 正彦(事務)

【船橋】

長澤 勝則(陸)

【習志野】

岡光 辰彦(陸)

【八千代】

宮田 貴幸(陸)

【佐倉】

吉田 篤史(陸)

【館山】

工藤 幸博(陸)

【館山】

萩岡 誠二(海)

【柏】

隈部 明教(海)

【白井】

高橋 宗裕(海)

【白井】

小川 恵右(海)

【市川】

本松 伸一(海)

【千葉中央】

井田 善規(陸)

【船橋】

鳥末 真(陸)

【我孫子】

山之上 哲郎(陸)

【船橋】

羽賀 直樹(陸)

【習志野】

奥田 浩一(陸)

【船橋】

古茂田 雅之(陸)

【松戸】

佐藤 誠(陸)

【四街道】

恩田 茂(陸)

【流山】

中村 浩之(陸)

【木更津】

小野寺 秀夫(空)

【三國】

三國 三千男(空)

各地で戦没者慰霊行事を斎行

◆柏地区戦没者慰霊祭



東葛偕行会及び県隊友会柏支部は、共催で、8月14日(火)、10時から柏公園忠霊之碑前(柏市柏565)で柏地区戦没者慰霊祭を斎行した。今年、地元の秋山

浩保柏市長、助川忠弘柏市議、根本敏弘柏市遺族会会長、高根勝男柏市自衛隊家族会会長、お供え用のビールを製造販売している「こまいぬビール」社長丹羽文隆氏、東葛偕行会、県隊友会から小淵会長、田中副会長、柏支部、沼南支部の合計30名が参列し、戦没者を悼んだ。隊友会柏支部が主催することになって3年目ながら、規模も徐々に充実したものになってきた。

◆鎌ヶ谷支部忠霊塔参拝

鎌ヶ谷支部は、8月15日(水)、鎌ヶ谷市初富稻荷神社北側に所在する忠霊塔を参拝し、戦没者を悼んだ。松戸支部の河野芳久会員及び鎌ヶ谷支部の渡辺尚武会員以下5名は、10時に現地に集合、慰霊碑を清掃した後、英霊に対し敬礼、黙祷、追悼の辞、献花・拝礼の順で式を斎行した。

【鎌ヶ谷支部長 坂本祥真】

◆我孫子柴崎神社慰霊祭

8月15日(水)、10時から我孫子市遺族会、東葛偕行会及び隊友会我孫子支部の有志計15名が参列し、市内の柴崎神社(宮司 湯下正博)に所在する忠霊碑の前で例年通り、慰霊祭が宮司の司会進行で執り行われた。その後、遺族会の方々が持ち寄られた赤飯とビール等で、宮司も加わり歓談、遺徳を偲んだ。

【我孫子支部長 豊嶋尉史】

沼南支部「第13回手賀沼トライアスロン大会」を支援

手賀沼で約600名が泳ぐ、この光景を誰が予想できたでしょうか。このイベントも、今年で13回目を迎えた。手賀大橋付近の手賀沼湖畔で水泳1500m、自転車40km、ランニング10kmを競う。今年も、「よみがえれ 手賀沼」のスローガンのもと、8月19日(日)開催された。

沼南支部は、第1回大会から支援に当たっている。今回も満園支部長と河西監事役(大会実行委員)、永岡、金子理事役、小渡監事役、阿比留柏支部長の他会員18名のボランティアが大会支援に当たった。

早朝、4時半、我孫子市役所駐車場に集合し、選手車両の専用駐車場への誘導を皮切りにバイクコースの警戒に当たった。前日の大会準備作業及び当日とも猛暑の合間(気温28℃)の好天に恵まれ全員無事に任務を終え、13時半に散会した。



選手用駐車場の誘導



スイムスタート風景



大会会長(浜田県議)に選手宣誓



バイクコースへの白鳥侵入を警戒